

平成 29 年度第 5 回佐倉市行政評価懇話会 要録

日時	平成 29 年 10 月 21 日（日）9 時 00 分～12 時 10 分	場所	市役所 1 号館 6 階大会議室
出席者	懇話会委員：宇田川委員、小野委員、坂口委員、武藤委員（委員長）、目等委員（副委員長） （五十音順）		
	事務局	山辺企画政策部長、小川企画政策課長、和田主幹、上野主幹、緑川副主幹、藤崎副主幹、呉屋主査、橘主査	
	施策担当課	（自治人権推進課）小田主査、小野寺主事、（高齢者福祉課）三須課長 （都市計画課）鈴木副主幹、（危機管理室）内田主査	
	その他	市民ワークショップ参加者 16 名、傍聴 0 名	
内 容			
<p>事務局（呉屋主査）：本日は平成 29 年度佐倉市行政評価懇話会、第 1 回市民ワークショップに参加いただきありがとうございます。「高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすために」をテーマとしたワークショップに参加してもよいと希望をいただいた方々にお集まりいただいている。どうぞ自由闊達に意見をいただければ幸いです。</p> <p>また、ワークショップの前に確認する。会場で記録のために写真を撮り、HP などに使用する場合がありますが、支障のある場合は、今ここで手を上げていただきたい。（挙手なし）</p> <p>それでは最初に、企画政策部長が挨拶する。</p> <p>山辺企画政策部長：今年度、市民意識調査の対象となられた方や、昨年度の行政評価のワークショップでもお世話になった方に声掛けをし、16 名の方のご協力を頂くことができ、ありがたい。今日の話合いが有意義なものとなるようお願いする。</p> <p>事務局（呉屋主査）：続いて、佐倉市行政評価懇話会の武藤委員長から挨拶を頂戴する。</p> <p>武藤委員長：本日は多くの方に参加いただきありがとうございます。行政評価懇話会においては、私が委員長を務め、市の施策の評価を実施しているが、市民の意見も踏まえた評価を行いたいので、今回、このような形で集まっていただき、意見をお聞きしたいと考えた。本日はよろしく願いたい。</p> <p><佐倉市行政評価懇話会委員及び市職員自己紹介></p> <p>事務局（上野主幹）：ワークショップの趣旨について説明する。佐倉市では、行政サービスや行政事務がしっかりと推進されるよう、目標を立てて、実績を記録し、進み具合を評価し、次年度以降のやり方を見直すという、プラン・ドゥ・チェック・アクションという手続きの流れがある。これが行政評価の仕組みである。基本的には行政評価は自らで行うものであるが、PDCA サイクルを効果的に実施するため、外部の視点で意見をいただく機能として、佐倉市行政評価懇話会を設置している。</p> <p>この佐倉市行政評価懇話会において、市民の方々からも直接意見を聞きたいということで、昨年度に引き続き、市民ワークショップを開催することとした。行政評価懇話会で「より市民の方の意見をいただきたい分野や意見を生かせるテーマ」を検討し、本日のワークショップでは、「高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすために」を大テーマとした。さらに、小テーマとして「暮らし続ける環境整備」を 2 班、「自助・共助のまちづくり」1 班として、計 3 班の班分けをしている。作業は 9 時 30 分頃から 11 時 25 分頃までで、最後に各班に発表いただき、12 時には終了予定である。</p> <p>次に、ワークショップの進め方について説明する。ワークショップの進め方についてはお手元に 1 枚資料を用意した。自己紹介のあと、班では最初に役割分担を決めていただく。タイムキーパー 1 名、書記 1 名、発表 2 名でお願いします。職員が班全体の記録係として 1 名、行政評価懇話会委員が 1～2 名入るが、話し合い自体は市民の方主導でお願いします。また、各々市長になったつもりでワークにあたっていただきたいので、本日は互いに「〇〇市長」と呼び合っていたいただきたい。</p>			

事務局（呉屋主査）：続きまして、本日みなさまに話し合っていたいただきたいテーマについてご説明する。市では多くの業務を行っており、重点施策だけでも 28 本いる。そのうち、本日のテーマである「高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすために」につながる 4 本の重点施策を、別紙のように取りまとめた。こちらの資料を参考にしながら、各班の小テーマについて意見を自由に述べていただきたい。

それでは、作業を始める。まず、自己紹介のために、お手元の 9 マス紹介シートに、自分の PR ポイントを埋めていただきたい。次に、そのシートを使って 1 分間で自己紹介をしていただく。自己紹介の冒頭では、「市長の〇〇である」と始めていただきたい。

<各班で自己紹介>

事務局（呉屋主査）：自己紹介が終わったら、役割分担を行う。各班の進行役は職員が務める。ほかの役割は、9 マス紹介シートの字が最も大きな方が書記役、スポーツのことを書いた人と、字が最もきれいな人が発表役、会社や資格のことを書いた人をタイムキーパー役として班で選んでいただきたい。選んだら、進行役は役割を書いた紙をその方に渡していただきたい。また、選ばれた方は、自分の役割を意識しながらワークを進めていただきたい。

最初に「①カード記入」である。今回は「高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすために」、「暮らし続ける環境整備」、「自助・共助のまちづくり」のそれぞれの班のテーマについて、佐倉市の弱いところやもっとがんばれるところといった「課題」や、この取り組みはいい、ずっとやってほしい、市民も頑張っているといった「良い面」、また、自身の身近で気が付いた事、常日頃思っていること、などなどを付箋 1 枚につき 1 つのことを大きくはっきり記入していただきたい。基本的には課題は青、良い面は赤、どちらでもないものは黄色でお願いします。カードはたくさんあるので、思い付くままにどんどん書いていただきたい。それでは始めていただきたい。

<各班でカード記入>

事務局（呉屋主査）：次に「②カード並べ」である。1 人ずつ、①で書いたカードを説明しながら、模造紙に貼っていただく。同じカードを作った人がいたら、「私も同じ」ということで、最初に貼った人の近くに貼って、グループ分けをしていただく。まずはカードを全員が並べきってから、いろいろと広がる議論をしてみたい。

<各班で説明・カード並べ>

事務局（呉屋主査）：次に「③説明・カード並べ」である。分類したカードを見ながら、話し合いをしていただく。話し合いの流れで必要があればカードを追加するなど、分類しなおしていただきたい。進行役は 1 人があまり長く話しすぎているときや、ずっと話をしていない人がいたら、声掛けしていただきたい。その他の方は進行役の指示に従っていただきたい。

<各班で話し合い・カード追加>

事務局（呉屋主査）：最後に「④分類・まとめ」である。②③で話し合ったことを、模造紙の上で整理して、皆に説明しやすいように、模造紙を仕上げてください。タイトルを上、班名を右上、班員の名前を右下に書いていただきたい。あとで見返しても、「そういえばそんな意見があった」と思い出せるように仕上げてください。カードを足してもよいし、模造紙に直接、色マジックで大見出しをつける、また、関連性を矢印で表現するなど、自由に表現していただきたい。

<各班で成果のとりまとめ、発表の準備>

■各班発表

B班 カードに記入された主な意見

※ ○良いところ、×課題、△その他、◎対応策

◆ 施設

- 居住環境良
- 市の公民館（職員含む）が充実している
- 市民体育館卓球台が多く良い
- 図書館良く整備されている
- × 公民館のトイレ改善（様式化）
- × ミレニアムセンターの活用は不十分に思われる
- × 公園にトイレがない（少ない）
- × 本庁市役所の案内整備
- △ 民間トイレのトイレ利用可の表示を

◆ 健康

- 高額医療費の補助は続けてください（12,000円以上）
- × 高齢者なのかの判断がつかない人が多い（自覚として）
- × 介護に関係するに参加しない者の引出し方法
- △ 介護・福祉施設の使いやすさ（予約とりづらい）
- △ 市内病院に高齢者医療の特色を…住みたい老後の町に
- △ 機能低下の予防講座（各自治会館）
- △ 佐倉が日本に誇れる高齢者対策対応を2～3強力な実施
- △ 認知症の不明の取扱い

⇒（こうしてはどうか？）

- ◎ 予算の使い方！
- ◎ 敬老会の1,000円配布は知らない
- ◎ 人間ドック補助は良い
- ◎ はり・きゅうマッサージも知らない
- ◎ 予防が大切

◆ 自治会

- 自治会・町会の活躍が進みつつある
- × 住民の身近な連絡（高齢者対策）が少し遅い
- × 各自治会運営が弱く行政事項が十分届かない
- △ 支援センターでの相談に行くまでの相談

⇒（こうしてはどうか？）

- ◎ 自治会を生かして情報を伝える
- ◎ 住民の協力を！もりあげ方

◆ 交通

- 道路の整備

- 地区の公共交通、バス等有（藤治台）
- × 市道の街路樹整備・清掃
- × 地区の公共交通、バス等有（料金、ダイヤ数）
- × 安心して生活できる街づくり
- × 側溝のふたの安全性・整備
- △ 歩行路の高齢者配慮が少ない
- △ JR・京成佐倉駅間の無料バス（市役所経由）
- △ 佐倉警察前辺りの道路混雑対策は？

◆ 広報

- 佐倉市広報が良くできている
- × 広報誌に高齢ニュース、連絡欄を鮮明に
- × 佐倉は住みやすいと思う高齢者は他市と比べて多いか？
- △ 広報誌は充実しているが市民を登場させてほしい

◆ 情報

- × 各機関との連携緊密不足

⇒（こうしてはどうか？）

- ◎ もっと皆で助けあうための情報を（高齢者が増えている！情報を）

◆ 佐倉ならではの

- △ 佐倉 IC 近く道の駅
- △ 老後の不安、特に夫
- △ 佐倉に住む誇り（特に高齢者）が少ないのでは？
- △ 老々介護の状態

◆ 災害

- × 防災無線よく聞こえない
- × 佐倉市のマップ地図を作る
- △ 災害備え（水・トイレ・電気）

◆ 空き家

- △ 空き家が増えている

◆ ゴミ

- △ 資源ゴミの検討
- △ ゴミ出しがはっきりしない

◆ 買い物

- △ 今後の高齢化に伴う買い物等

◆ その他

- 職員の接遇、好感度が高い
- 行政は市民のために努力している

B 班発表テーマ 『暮らし続ける環境整備 行政と高齢者の共有社会づくり！』

(B 班①) 施設、健康、自治会、交通という大きなテーマがあり、その他、広報、情報、ゴミ、買い物がある。施設については、公民館やトイレ、体育館を始め、充実しており「いい」という意見があった。問題は、ミレニアムセンターの活用が十分ではないこと、市役所本庁舎の案内が十分整備されていないという意見があった。健康については、高齢者のはり・きゅうマッサージの補助金や、敬老会の商品券は必要ないという意見があった。自治会については、市役所からの情報が活かされていないのではないかという意見があった。災害については、防災無線があまり聞こえないという意見もあった。

(B 班②) 前回、公共施設のトイレについて洋式化等高齢者が利用しやすい方向で改善してほしいと話したが、中央公民館など洋式化され、非常によかった。また市職員の説明など対応がよいと感じる。

敬老会で配布される一人 1,000 円分の商品券、はり・きゅう・マッサージ券については高齢者にとってもいらぬという意見が出された。そこに使われる予算をもっと高齢者にとって有用な事業に使ってほしい。

(三須高齢者福祉課長) 敬老記念品の地域商品券は、年に 1 回ではあるが、自治会の加入、未加入に関わらず、誰かが訪ねてくれるなど、地域による見守り、安否確認も目的としている。現状、議会などでの議論、意見を踏まえて見直しを図っていく。

また、市では、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、市内 5 か所の日常生活圏域で、地域包括ケアシステムの構築を進めている。志津北部、志津南部、臼井・千代田、佐倉、根郷・和田・弥富(南部)の各圏域に特養や老人保健施設、認知グループホームなどの施設整備を進めてきた。地域包括ケアシステムは、住まいを中心として、医療や介護、生活支援、介護予防などが提供されるようにすることを目的としている。医療と介護の連携も必要となるが、地域包括支援センターに認知症初期集中支援チームを配置し、医師と看護師、介護福祉士などの専門職が連携して、認知症の疑いのある方、サービスに結びついていない方を支援していくものである。

地域包括支援センターに生活支援コーディネーターを配置し、地域の支え合い助け合いリストを作成したので、ケアマネジャーなどの専門職だけでなく、多くの市民の方に活用、紹介をしていただきたい。

A 班 カードに記入された主な意見

◆ 施設

- 図書館の活用
- 期日前投票増設
- × 地域課題対応型施策を多く
- × 自宅に戻れない、自宅との二重生活
- △ 社会福祉施設との連携
- △ 今までいざ〜というとき不安でした。でもサービス付き住宅があるのを知って安心。でも費用の面では不安。

◆ 防災

- 防災を考えるときに「ドローン」を考えたらどうか
- × テロ対策
- × サギ対策、金融
- × 強盗、ひったくり、民泊
- × NPO、NGO の問題 (ロンダリング)、不活性組織の排除

◆ まちづくり、コミュニティ

- 多様な活動団体
- まちづくりの組織が各地区にある
- 地域社会への貢献意欲ある人多い
- × 独居老人の連絡手段
- × シルバー層の地域貢献への活用
- × 市民活動、情報交流もっと知らせて
- △ 集まる場所（お茶のある場所）
- △ 自治会活動のあり方
- △ 引きこもりをしない声かけ
- △ ヘルパーさん等働いている人の移動がはげしい

◆ 交通手段

- × 交通手段の充実と拠点の充実と一本化を
- × 移動・買物弱者重視＋双方向へ
- × 買い物、食事等日常生活の不安
- × 佐倉駅（京成）エレベーター、エスカレーター等周辺を楽しめる場所に（買物等）
- × 交通網の整備
- × バスの時刻表が見にくい。もう少しわかりやすく。
- △ 公共交通の充実

◆ 医療・健康

- △ 介護施設を今から申し込まないと将来入居できない？
- × 高齢者がけがをした後のリハビリ専門の病院がない
- × 高齢者の健康な方の地域包括支援の申し込み方のお知らせが多くない
- × 医療保険と介護保険の違いを説明してほしい。
- × 医療、交通とウイルス他
- × 当事者の意見を反映する
- × 介護施設の種類
- × 高齢者になると介護等費用が不安
- × 生きがいや予防重視
- × 医療、防災、輸送大型ヘリポート
- × 包括支援センターへの多くの市民の参加
- × 地域包括ケアシステム認知度低い
- △ 健康・福祉と農の一本化した施策
- △ 施設の食事が不安。おいしいけど。働いている人の環境が厳しい。

◆ 全体

- のんびり暮らせる自然環境、歴史、文化
- × 生活、仕事と支える人（高齢者の側、家族の側）
- × IOT 機器とプライバシー、利点と欠点
- × 高齢者の対象きめ細やかに
- × 次世代の定住化
- × マイナス面を補う→魅力度アップ
- × インフラ整備、老朽化と予算

(A 班) 時間的制約がある中、各々が出した意見を「施設」、「防災」、「まちづくり・コミュニティ」、「交通」及び「医療・健康」の 5 つに分類し、これらに分類できないものを「全体」としてまとめた。

「施設」に関しては、図書館をよく活用する、という意見があったほか、地域課題に対応できる社会福祉施設が望まれているのではないかと意見があった。

防犯を含む「防災」に関しては、テロや詐欺等の問題への対応も重要になってきているという意見や、NPO や NGO のうち不活性組織の排除についての意見、防犯活動にドローンを活用してはどうかという意見があった。

「交通」に関しては、移動・買物弱者への対応として、公共交通網の充実が重要という意見がある一方、支援を必要とする人を支援する側の拠点も充実させるべきという意見があった。

「医療・健康」に関しては、地域包括ケアシステムに対する市民の認知度が低いと、理解促進を図るべきという意見や、医療保険や介護保険制度の仕組みがよく分からず、いざ利用する際に困ったという意見があった。当事者の意見は重要であり、参考にすべきである。また、健康は重要であるが、多少のお金も必要であるため、耕作放棄地を活用して農業を行ってもらうなど、健康づくりと農業の推進を一体として進められないかという意見もあった。

「まちづくり・コミュニティ」に関しては、自治会活動について、不参加等の問題があることや、従来型ではない課題対応型の自治会が求められているという意見、また、社会貢献や地域活動をしたい人は多いので、これらの人をうまく引き出す方法を検討すべきという意見があった。その他、普通に暮らしていくためには、集う場所、お茶を飲める場所、ぶらっと立ち寄れる場所が必要という意見もあった。

「全体」としては、予算を含め、インフラの老朽化への対応が必要という意見や、IOT 機器を活用する一方プライバシーへの対応が必要という意見、また、のんびり暮らせる自然や歴史・文化を売りにした環境整備が必要という意見や、高齢者は必要であるが高齢者は幅広く、きめ細やかな対応が必要といった意見、その他、マイナス面を埋め、魅力度向上を図るための次の何らかの対策が必要という意見があった。

(鈴木都市計画課副主幹) 公共交通について、利用できない交通難民がいる。効果的に地域に合ったものにしてほしいといった意見をいただいた。市では交通空白地の移動手段としてコミュニティバスやその他の方法で買い物や通院に利用できるよう市内部において検討を実施しているところである。また、B 班であったバスの利用に補助金を導入して格安にしてほしい。京成佐倉と JR 佐倉を結ぶバスを走らせてほしいといった意見もいただいた。検討においては回数券、免許返納者に対する優遇措置や JR 佐倉と京成佐倉を含んで循環するバスについても、いずれも決定事項としては申し上げられないが、利用しやすい公共交通となるよう検討を進めている。

(三須高齢者福祉課長) 医療機関は治療が終われば退院することになる。退院時の在宅で生活を支えるための介護サービス利用は、病院にいる MSW とケアマネ事業所で行う。地域包括支援センターにもケアマネジャーがいるので、何か困ったことがあれば、地域包括支援センターに相談いただきたい。

(内田危機管理室主査) 情報の発信・収集方法については、防災ガイドブックを作成し、各自治会を通じ、また、各出張所等で配布をしている。さらに 9 月 1 日号のこうほう佐倉においても、防災特集号を組んで周知を行っている。ただし、生活に差し迫った情報ではないため、配布をしても物置等に仕舞ってしまう家庭も多いのではないかとと思われるため、引き続き、周知については、自治会等で開催する防災講話等において、図ってまいりたい。

C 班 カードに記入された主な意見

◆ 施設・交流等

△ マンション出入口の花壇の整理

- 南部支援センター
- 高齢者同士のコミュニケーションが取れている
- × まち（地区）の生かし方
- × コミュニティカフェ
- × （身体）障害者施設ない
- おいしい給食
- △ 近くに図書館があるが中に入るとカビ臭い
- × 近くのスーパーに車椅子等の常備が少ない
- × 年代の交流
- × 古い図書館使いづらい
- 施設が新しく生まれ変わってきている
- △ 公園入口にハザードマップがある

⇒（こうしてはどうか？）

- ◎ 使いやすい施設の改善（利用者の意見取り入れる）
- ◎ 包括支援センター「高齢者の移動」の利用
- ◎ 地域活動のPR、文書の投函
- ◎ コミュニティセンターの利用をもっと宣伝しても良いのではないか
- ◎ 助け合い会をもっとPRする
- ◎ 継続的な会の案内
- ◎ 幼稚園とイベントをタイアップ（周知）
- ◎ 市民⇄市役所⇄市民
- ◎ ネスレのようにアンバサダーを作る

◆ 地域活動組織等

- 民生に相談しやすい
- △ 個人情報
- △ 自治会の加入低下は恩恵を感じていないのでは？
- × 民生委員候補者
- × 会の存在の周知が弱い
- × 近所の助け合い
- 近所のつきあいが良い
- × 志津地区は入院できる病院が少ない
- × インフルエンザ予防
- × 予防
- 自律している高齢者が多い
- いきいきサロンそのものは良い
- たくさんの助け合いの会がある
- 独居老人声かけ（自助）
- × 地域の活動の誘い方が見えない
- 町内会に様々な趣味の会がある
- × 介護タクシー（市営は？）
- △ デマンド使いづらい
- 独居老人への声かけ
- 自治会への支援
- 小ブロック毎のおつき合い
- ゴルフ部で何ができるか

- 駅前の清掃を定期的に行っている
- 毎日の挨拶（声のかけあい）
- まち協
- 「町協」の頑張り
- × シルバー人材センターのタクシーは2日前
- △ 買物の支援、いっどこへ車がくるのかのPRが足りない
- × となりに住んでいる人を知らない
- × となりの家の犬（5～7匹）の鳴き声がうるさい
- △ 何がやりたいのかを広くきいてみる（いきいきサロン）
- △ いきいきサロン、本当にやりたいことはあまりない
- △ 支援がなくてもやりたいことはある（例：ゴミ拾い）
- × 意識の課題
- 子育て支援が…

⇒（こうしてはどうか？）

- ◎ 食事会は高齢者にとってありがたい
- ◎ ご近所での食事会
- ◎ 近所付き合いの件に対しては民生委員や自治会の活用が必要ではないか
- ◎ 笑顔で立ち話！！（近所）
- ◎ 地域差を感じるので地区長の交流をしていただきたい
- ◎ 各地区の自治会長や民生委員の集まりを行い地区毎の問題や課題の話し合う場

◆ 地域資源等

- △ チューリップ畑
- △ オランダ姉妹市
- △ 花火
- 武家屋敷
- 地産地消
- × 小江戸づくり
- × 公園の利用の仕方

⇒（こうしてはどうか？）

- ◎ 次世代のメリットを考える
- ◎ 子どもの送り迎え
- ◎ 学童
- ◎ ハザードマップ⇒市の要望（自治会経由）

◆ 防犯・防災等

- × 防犯上問題あり
- × 空き巣
- × 道路が狭い
- × 水没
- 火災体験
- 防災ラジオ

⇒（こうしてはどうか？）

- ◎ 夜間パトロールの充実

- ◎ 施設、防犯ガラス
- ◎ 防犯活動のグループを地域で増やす

C 班発表テーマ 『自助・共助 高齢者が安心して生活するには』

(C 班①) 障害者に対する支援がまだまだできていないのが現状ではないか。実際、当班の方の中には、障害者施設がないことを非常に憂いている方がいた。「自分たちはやっている」と考えるのではなく、他市と比較するなどし、「欠けているところはないか」という意識で、PDCAを回していただきたい。また、介護タクシーはあるが使いづらいという意見があった。観光については、チューリップ畑などの目玉を観光資源としてもっと活用すべきという意見があった。防犯については、まだまだ空き巣などが多いといった意見があった。その他、道路が狭い、防災ラジオがあることを知らなかった、という意見があった。火災体験もやっているとのことであるが、これらの問題点については後で挙げる。また、地域支え合いリストを見て、こんなにたくさんの施設があると知り驚いた。2010年には30団体程度しかなかったものが今は100団体程度に増えている。これだけいい施設があるにもかかわらず活用できていないことが問題である。A班、B班の発表を聞いていても、同じく、せっかくなものがあるにもかかわらず、その情報が市民に伝わっておらず、活用できていないということが共通した課題であると感じた。ただ施設を作っただけでその利用を促すだけではなく、利用者の意見をどんどん採り入れ、その施設をよりよく使うにはどうすべきかを考えていただきたい。PRが足りないという意見もあった。資料も作って置いておくだけではなく、一戸一戸に配ってPRしていただきたい。また、幼稚園のイベントとタイアップして、こういう施設があるということをPRすれば効果があるのではないか。このように、PRの方法をもっと工夫することが必要である。地域との交流については、食事をやってはどうかという意見があった。会ったときに挨拶もしない人が多いので、挨拶の奨励も行ってはどうか。そうすることで笑顔が生まれれば会話が生まれる。小学校・中学校で先生に言われた基本的なことが、実はできていない。道徳の時間が減っているとも聞いている。そういうことがもっと必要ではないか。また、横の交流については、南部支援センターが非常に良いと聞いているので、もっと支援センター同士が横の交流をし、いいところを伸ばしていただきたい。民生委員の集まりにおいても同様に、それぞれの問題を出し合って、お互いのいいところを伸ばす、あるいは足りないところを補っていただきたい。防犯については、夜間パトロールの充実が必要との意見があった。まだまだ元気なお年寄りは大勢いる。その人たちをシルバーとして、防犯活動のグループをどんどん増やし、活動していただきたい。そのためには、次世代のメリットを考え、子供とお年寄りの交流の場を設けていただきたい。

(C 班②) 私は民生委員を務めているが、その立場から敢えて発言したい。一つは、介護タクシーについて、二日前でないと予約が取れない。高齢者の移動について、包括支援センターが足となっては支援してどうかと、千代田地区において話し合っているので、近い将来実現すると考えている。また、一つ、個人的なことではあるが、ぜひ言いたいことがある。私は染井野に住んでいるが、染井野において、空き巣や泥棒が頻繁に起こっている。現実に私の家にも泥棒が入ったし、私の横の駐車場では車そのものが盗まれた。その向こうの家の方も、宝石などが盗まるなど、近場でそういうことがいくつも起こっている。個人的には、高齢者の方のパトロールや、自助として防犯パトロールをやった方がいいと言っていたが、やはり自分たちだけではできかねるところがあるため、公助としてどういうことをすべきかということについて、考えていただきたい。例えば、私の知る限り、佐倉市におけるパトカーの数、警察官の数が少ないのではないかという気がしている。これから、もっと犯罪が増える可能性があるため、行政の対応を期待している。

(三須高齢者福祉課長) 支え合いリストの活用が足りないという意見をいただいた。これについては、各包括支援センターに生活支援コーディネーターを一人配置しており、こういった情報を集め、今回まとめたところである。この活用については、別段専門職でなくとも、例えば「近所で閉じこもっている人がいるので、こうしてはどうか」という形で、誰でも活用してもらえる内容となっているの

で、ご紹介等していただけたら幸いである。また、先ほど他班からも指摘があったが、地域包括ケアシステムとは何かということについて、高齢者福祉課において、この度、一般の市民向けの講演会を企画し、申込みをいただいているが、まだまだ余裕があるので、ぜひ参加いただきたい。「高齢社会における地域づくり～地域包括ケアシステムの構築に向けて」ということで、午前・午後に行う。講師としてはさわやか福祉財団の土屋先生を招く。日付は11月20日、午前中が志津コミュニティセンター、午後が中央公民館。ぜひ参加いただきたい。

(小田自治人権推進課主査) 本日はハード・ソフト両面にわたる多様な意見をいただきありがたい。本日のテーマ「高齢者が安心して生活するために」を達成するためには、我々自治人権推進課は自治会やNPO等の支援を行っているが、団体やシステムではなく、やはり人が重要であること、「向こう三軒両隣」、ご近所付き合いのできる関係が培われることにより、この目的を達成できるものと改めて認識をした。本日いただいた意見を持ち帰り、地域の活性化に繋がられるよう、取り組んでまいりたい。

事務局(呉屋主査): 本日は長時間に渡りワークショップに参加いただきありがたい。本日の記録についてはとりまとめ、後日、参加者に郵送させていただく。

いただいた意見は、行政評価懇話会で改めて検討し、懇話会が佐倉市に提出する意見書の中に盛り込ませていただく予定である。

それでは、企画政策課長より挨拶申し上げる。

小川企画政策課長: 本日は長時間にわたり参加いただき、厚くお礼申し上げる。市役所では様々な業務があり、それぞれの業務につき、毎年、各担当課において、自己評価をしているが、この評価については、概ね「順調に効果が出ている」となる。そうしないと予算が付かなくなるという問題点があるからであるが、本日様々な課題を提案いただき、我々サービスと提供する側と、サービスを受ける市民の側とで、問題の捉え方が大きく違うということを感じ、大変勉強になった。本日いただいた意見については、一つ一つ丁寧に分析し、今後施策に反映していきたいと考えている。

事務局(呉屋主査): 佐倉市行政評価懇話会、目等副委員長から最後に挨拶をお願いする

目等副委員長: 雨の中多くの方に集まっただき感謝申し上げる。本当に多くの意見を頂戴した。私はB班に所属していたが、B班においては、敬老会の商品券について「千円程度もらっても仕方がない」、「もっと高齢者が健康になるものを考えてもらいたい」という意見があった。「我々高齢者がオレオレ詐欺でお金を取られてしまう前に、皆で活用できるいい施策に変えていただきたい」という意見があったことを伝えておく。議会でも問題になっているようであるので、早々に対応をお願いしたい。その他ここでいただいた多くの意見については、懇話会の中で吟味し、極力、市長に提出する意見書に盛り込みたいと考えている。今までも多くの意見をしてきているが、8割～9割は実現していることを申し添える。

事務局(呉屋主査): 最後に事務局から事務連絡を申し上げる。

後日アンケート調査票を郵送するので、本日の感想等を記入の上返信用封筒にて返送いただきたい。また、次回、第2回市民ワークショップは11月18日(土)9時から本日と同じ会場で開催する。次回のテーマは「佐倉の魅力発信」とし、「シティブロモーション」と「子育て支援」の班に分かれてワークショップを行う。次回も引き続き参加予定の方は、よろしく願います。また、次回参加を予定していなかった方も、都合をつけて参加していただけると大変ありがたい。

(12時10分 終了)